

平成25年度市民ノーマイカーデーに関するアンケート調査結果

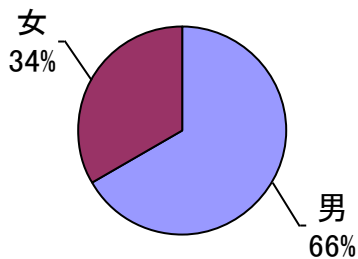
平成25年度市民ノーマイカーデーの参加者は197人、アンケート提出が192件であった。(アンケート回収率97.5%)

問1 あなたの性別・年齢について

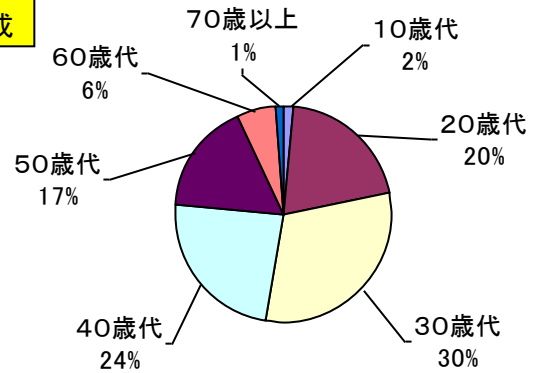
参加者の男女比は男66%、女34%であった。

年齢構成は、30歳代が30%と最も多く、次いで40歳代、20歳代、50歳代の順となり、10歳代が2%、70歳以上が1%であった。

男女比



年齢構成

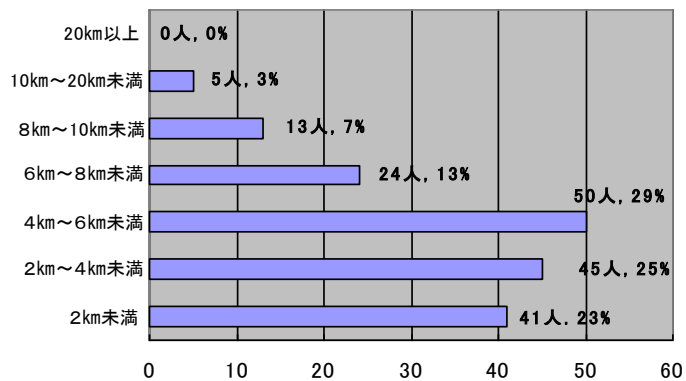


問2 自宅からの通勤・通学・買い物・通院等の移動先までの片道の距離や時間についてお答えください

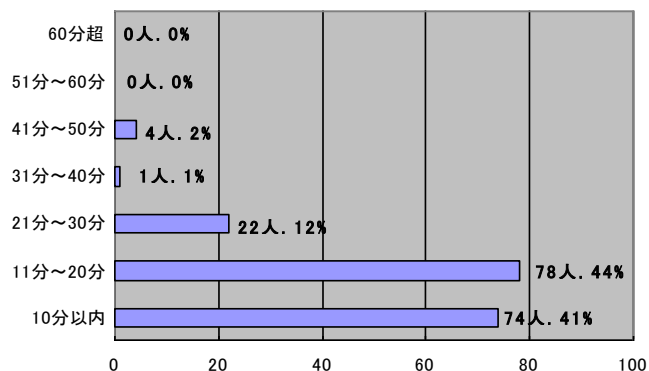
移動先までの片道距離は、4km～6km未満が29%で最も多く、全体の77%が6km未満であり、平均は4.6kmであった。

片道時間は11分～20分が44%で最も多く、全体の97%が30分以内であり、平均は15.1分であった。

片道距離



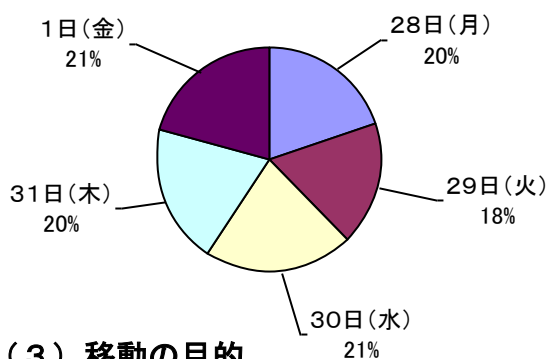
片道時間



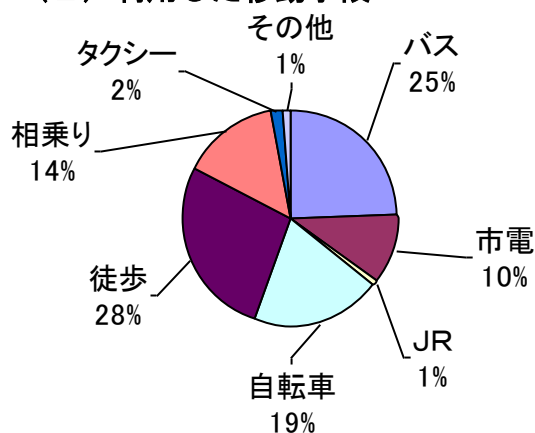
問3 「ノーマイカーデー」への参加状況についてお聞きします

月曜から金曜まで平均的に参加があり、曜日による差は見られなかった。
 参加人数はのべ578人で、期間中の平均参加日数は2.9日であった。
 利用した移動手段は、徒歩が28%で最も多く、次いでバスの25%であった。
 自転車も19%で3番目に多く、移動の目的は通勤が70%で最多であった。

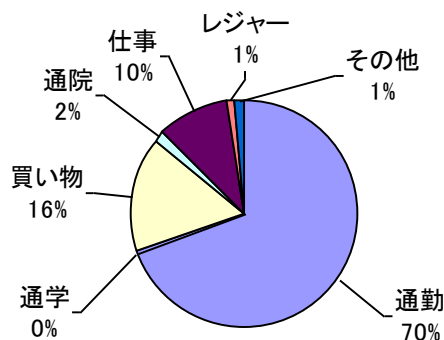
(1) 期間中の参加日



(2) 利用した移動手段



(3) 移動の目的



問4 「ノーマイカーデー」にはどれくらい積極的(または消極的)な気持ちで参加されましたか?

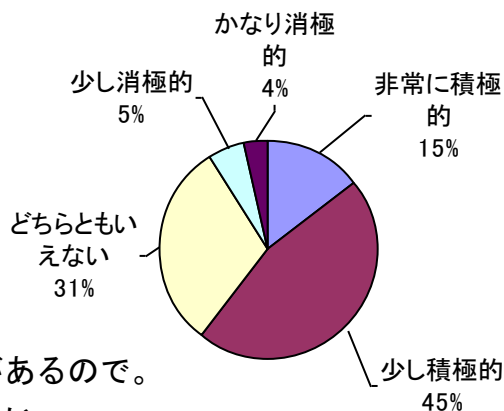
「非常に積極的」、「少し積極的」を合わせると60%と半数を超える一方で、「どちらともいえない」も31%あり、昨年同様、参加意識にはバラツキが見られた。

【積極的な意見】

- ・年に一度でも価値のある取り組みなので。
- ・多少なりともエコに貢献できればと思った。
- ・運動不足の解消も兼ねて参加。
- ・ガソリン代の節約。

【消極的な意見】

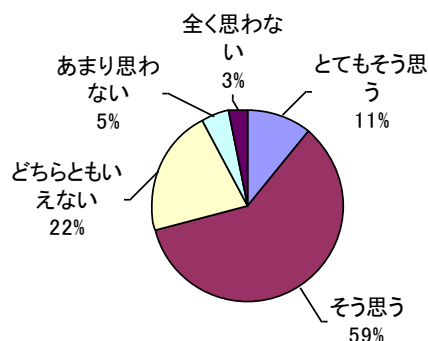
- ・帰りの交通手段がない為。
- ・移動時間が自由にならない。子供の送り迎えがあるので。
- ・距離が短いので、どれ位削減できるか分からない。
- ・必要性は分かるが仕事に支障が出る。



問5 「ノーマイカーデー」に参加してどのように感じたかお聞かせください

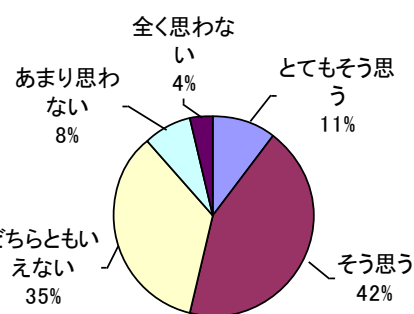
(1) 環境負荷削減への努力について考えるきっかけになりましたか？

「とてもそう思う」、「そう思う」を合わせると70%となり、環境負荷削減について考えるきっかけとして一定の効果があったが、「どちらともいえない」も22%あることから、これらの人達のきっかけとなるような取り組みの工夫が必要であることは、昨年と同様の傾向である。



(2) 今後、マイカーの利用を減らそうと考えるきっかけになりましたか？

「とてもそう思う」、「そう思う」を合わせると半数以上を占めるが、「どちらともいえない」が35%と前問よりも増加していることから、マイカー利用を減らすきっかけづくりとして、取り組み内容を検証し、今後に向けての改善が必要な点は昨年と同様であるが、「あまり思わない」、「全く思わない」の比率は昨年よりも、やや減少した。



(3) (1) または (2) であまり思わない、全く思わないを選択した理由

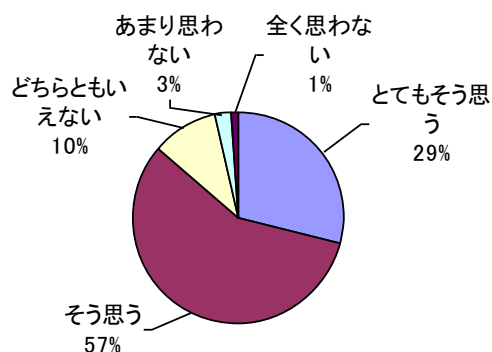
【主な意見】

- ・マイカーに替わる手段が便利とは言えないから。
- ・函館の場合は、第一に不便さを感じた。たいへん不便な思いをした。
- ・どのくらい環境に対して良い影響を与えたのか、実感しづらいため。
- ・最終的に仕事や自分のライフスタイルを考えると無理だから。
- ・環境負荷への努力を訴えるのであれば、市民が利用しやすい公共交通のあり方について、まず検討すべき。
- ・環境負荷削減よりも、健康増進目的の意識が強かったから。

(4) マイカー通勤を減らすことは、環境負荷の削減に役立つと思いますか？

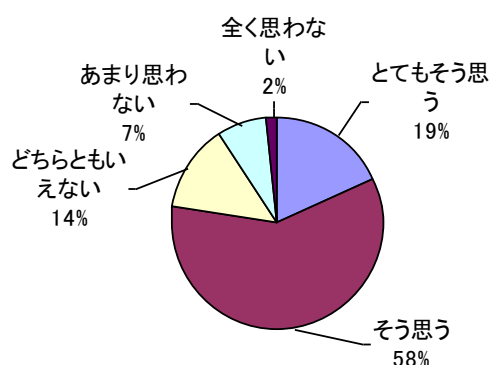
「そう思う」が57%で半数以上を占め、「とてもそう思う」を合わせると86%となり、昨年同様、ノーマイカーデーが環境負荷削減に役立つという認識は定着していると考えられる。

また、「あまり思わない」、「全く思わない」を合わせても4%であり、「マイカー通勤を減らすことは、環境負荷削減につながる」ということについての理解は得られていることも、昨年同様の結果であった。



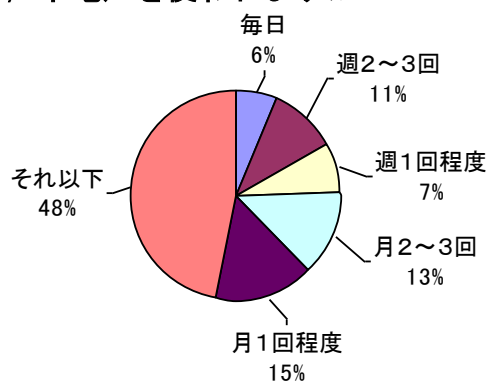
(5) ノーマイカーデーのような活動は、環境意識の向上に役立つと思いますか？

前問と同じような質問であるが「とてもそう思う」、「そう思う」を合わせて77%と9%低下しており、昨年同様の傾向が見られたが、「どちらともいえない」、「あまり思わない」を合わせた比率が昨年より15%低下していることから、昨年実施しなかった、ポスター掲示やチラシ配布等の事前PRの効果により、ノーマイカーデーの認知度がやや向上した影響があると考えられる。



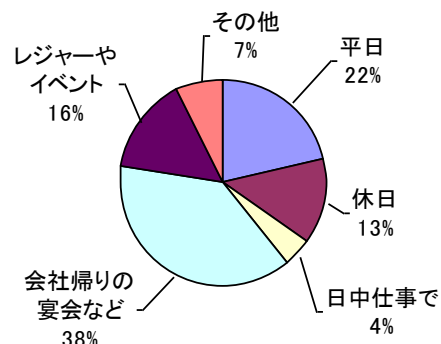
問6 ふだんどれくらいの頻度で公共交通（路線バス、市電）を使われますか？

「月1回以下」が48%と最も多く、中には全く使わないとの回答もあった。一方で、「月2～3回」も13%であり、月1回以上の利用は52%となり、昨年よりも公共交通の利用頻度は多い結果となった。



問7 公共交通（路線バス、市電）を使われるのは主にどんなときですか？

「会社帰りの宴会など」が38%と最も多く、次いで「レジャーやイベント」が16%であり、昨年同様の傾向が見られたが、ふだんから、公共交通を一定程度利用している層は昨年より増加した。



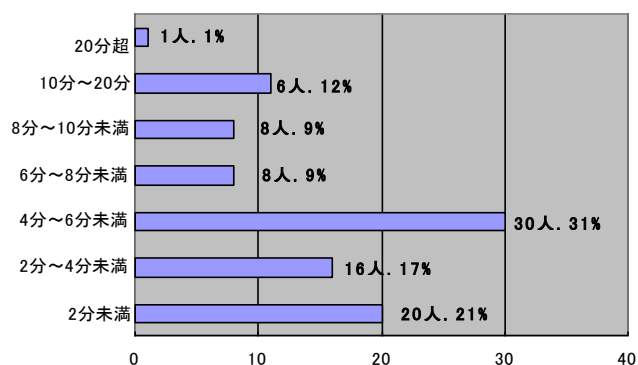
【その他の具体例】

- ・ 出張、旅行。
- ・ 駐車場がない時。

問8 ノーマイカーデーで公共交通を利用した方にお聞きします

(1) 自宅から最寄りのバス停、電停までの距離

「4分～6分未満」が31%と最も多く、次いで「2分未満」が21%であった。回答があった94名の平均は6.3分で最大30分、最小1分であった。全体として昨年同様の結果であり、最寄りのバス停や電停までの時間が6分程度であることが、公共交通の利用につながる目安となるのではないか。



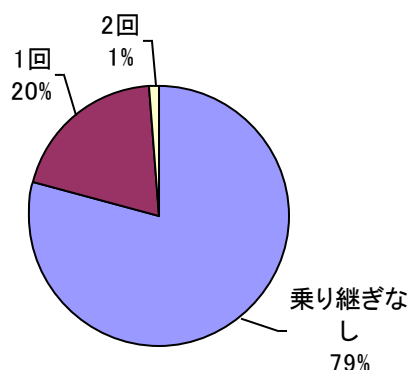
(2) 自宅出発時刻

回答があった83名の平均では、マイカー通勤よりも21分早く自宅を出発しており、最大60分、最小0分であった。

(3) 乗り継ぎ回数

92名から回答があり、「乗り継ぎなし」が79%と最も多く、次いで「1回」が20%であった。

3回以上の回答はなかった。

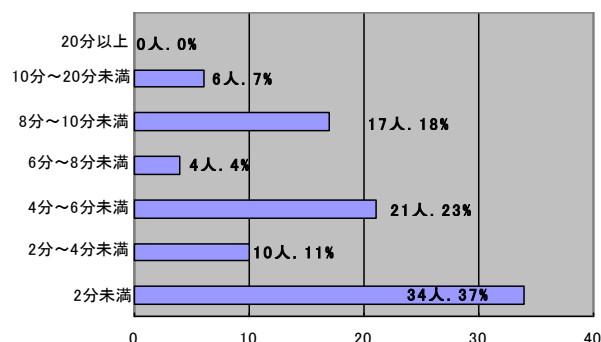


(4) 目的地の最寄りバス停、電停からの距離

「2分未満」が37%と最も多く、次いで「4分～6分未満」が23%であった。

回答があった92名の平均は5.2分で最大20分、最小1分であった。

昨年よりも目的地の最寄りのバス停、電停までの距離が近い傾向が見られ、6分以内が約70%であった。



問9 利用した交通手段の利便性はいかがでしたか？

125名から回答があり、「まあ便利」が40%で最も多く、次いで「どちらともいえない」の22%であった。

昨年よりも利便性についての評価は、わずかに向上している

【とても便利の内訳】

バス	市電	J R	自転車	徒歩	相乗り	タクシー	その他
6	5	0	6	10	3	0	0

【まあ便利の内訳】

バス	市電	J R	自転車	徒歩	相乗り	タクシー	その他
24	12	0	17	17	7	2	0

【どちらともいえないの内訳】

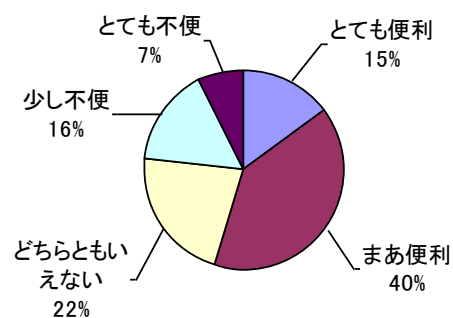
バス	市電	J R	自転車	徒歩	相乗り	タクシー	その他
16	5	1	5	11	8	0	0

【少し不便の内訳】

バス	市電	J R	自転車	徒歩	相乗り	タクシー	その他
15	3	1	5	5	1	2	0

【とても不便の内訳】

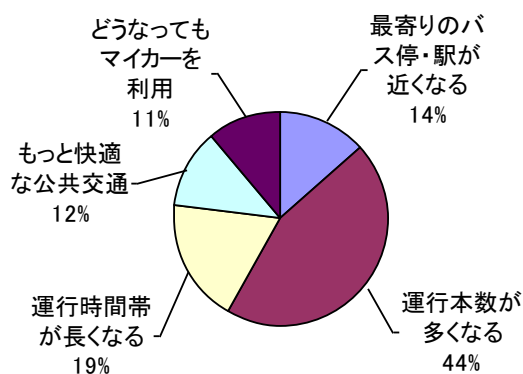
バス	市電	J R	自転車	徒歩	相乗り	タクシー	その他
5	4	1	2	1	0	0	1



※複数回答のため、回答数の合計が125とならない。

問10 公共交通サービスのこういった点が改善されれば、あなたはノーマイカーで通勤・通学ができますか？

161名から回答があり、「運行本数が増える」が44%と最も多く、次いで「運行時間帯が長くなる」が19%、「最寄りのバス停・駅が近くなる」は14%であった。
一方で「どうしてもマイカーを利用する」も11%あり、全体としては、昨年同様の傾向であった。

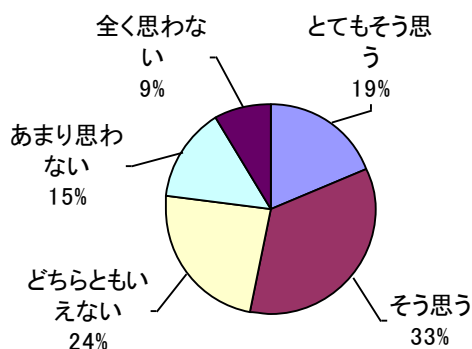


【もっと快適な公共交通サービスが実現への意見】

- ・ 路線がわかりやすく、運行本数が多いこと。
- ・ ICカードによる運賃支払い。
- ・ マイカー利用者にはない特典の付与。
- ・ 自分のスケジュールに沿うようなシステム。
- ・ バス、電車の路線と時刻を根本的に見直し、利便性の向上を図る。

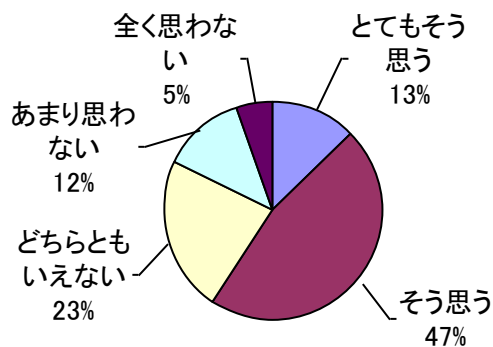
問11 乗り捨て可能なレンタル電動自転車やミニ電気自動車のような、パーソナルな公共交通サービスがあれば利用してみたいと思いますか？

186名から回答があり、「そう思う」が33%と最も多く、次いで「とてもそう思う」の19%と合わせ、概ね2人に一人はパーソナルな公共交通サービスへの関心があるという、昨年同様の結果となった。



問12 家の近くまで迎えに来てくれて、目的地近くまで送ってくれるようなデマンドバスのサービスがあったら、便利で使ってみたいと思いますか？

126名から回答があり、「そう思う」が47%と最も多く、「とてもそう思う」の13%と合わせ、60%の人がデマンドバスへの関心があるという、昨年同様の結果となった。



問13 今回のノーマイカーデーへ参加されて、ご意見、ご感想などあればお聞かせください。

78件の意見、感想があり、ノーマイカーデーに対して肯定的な意見と否定的な意見は概ね半数ずつであった。

【主な意見、感想】

- ・ノーマイカーは良いと思いますが、函館の現在の公共の交通機関では、朝早く夜遅い仕事の人には難しく思います。
- ・もう少し暖かい時期にお願いします。
- ・バス路線がもっとわかりやすく表示されていれば、もっと利用しやすいと思う。ネット等で、住所を入力すれば、どのバス（路線）を利用すればいいか検索してくれる様なアプリとかがあれば乗る人も増えるのでは。
- ・より多くの方に参加してもらえよう、PRに時期や方法に工夫を。公共交通の利便性を高めた形での長期的な実証実験ができないものか。
- ・ノーマイカーデーに参加しても、これが環境いしきの向上につながるかどうかは、あまり感じなかった。
車による排気ガスがどのくらい出ているとか、どうすればよいとか、目的がよく分からないまま義務的にやらされている感がありました。
ただ、普段全く使わないバスを今回使ってみて、思ったほど不便ではなかったし、帰りの時間帯のバスがもっと遅くまで走ってれば、つかっても良いかなと思いました。
- ・一部の人が参加してもあまり意味がないような気がする。
100人以上いる職場で今回参加していない人たちは、ノーマイカーデーを知らなかったと思う。町全体が半強制的に（例えば、車のナンバーの末尾が偶数、奇数で車に乗れる、乗れないを規制）する様な仕組みをつくらなければならないと思う。
- ・面白みが無く、普及活動にはつながりにくいと感じる。
- ・車がないと大変だと改めて感じました。
- ・このイベントを次どうするのか知りたい。
- ・湯川や五稜郭からJR函館駅までなど自転車道路の整備がされると一番嬉しい。
観光にも通勤、通学も多くの人が使えらと思います。乗り捨て可能なレンタル自転車の子供も乗せれる3人タイプがあるといいです。
- ・スーパーのエコバッグの様なエコポイントで特典などといったものであれば参加率、持続性共に上がると思います。
- ・たまにバスとかを使ってみるのもいいかなと思いました。
- ・近場でも車の習慣ができていたので、今回の取り組みをして見直すことができました。これから続けていきたいと思います。
- ・1日しか参加できなかったのが、終了後にも実施しています。
これもノーマイカーデーで意識が高まったためだと思います。
- ・移動手段を考え直すよい機会になっています。
マイカーより公共交通での通勤手当が優遇されれば、マイカー通勤が減るのではと思います。
- ・常日頃、マイカーの生活ですが、今後、運転免許を返上した時のことを想定いたしました。